

12月1日は世界エイズデー

2018年世界エイズデーキャンペーン

テーマ「UPDATE! エイズ治療のこと・HIV検査のこと」

平成30年度は、岐阜市内外の中学・高等学校、大学、専門学校から14枚のレッドリボンフラッグ作成の参加をしていただき、ありがとうございました。それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。

レッドリボンフラッグは、11月16日～12月10日まで、神田町5丁目と6丁目の交差点付近に展示します。



〈藍川北中学校〉

レッドリボンは、エイズへの理解と支援の象徴です。地球がレッドリボンで巻かれているところを表現し、国境など関係なく世界中の人々がHIV感染者やエイズ患者の方々の人権の尊重と差別の解消という同じ目標を持ってほしいという願いを込めてデザインしました。

〈厚見中学校〉

3年生が東京のHIV/エイズの人権施設を訪問し、日常生活の中で作られたマイナスイメージから病気に対する恐怖心や知識のなさ、なかなか浸透していかな現状にあること。いじめなどに傷つきながらそれと戦い偏見や差別をなくすために生きていることを学習して、全世界の一人ひとりが支えていくことの大切さや認識の必要性が、感染している人のいち早い治療につながることを実感してきました。その思いをデザインし、1年生が作ったレッドリボンをつけて完成したものです。

〈長森南中学校〉

「HIV感染者だから…」と言う理由で差別されてきた人はたくさんいると思います。そんな人たちが前向きに楽しく生活を送るには、まず周りを変えていかなければと思います。そのために、周りの人たちがエイズについて関心を持ち、正しい知識を持ってほしいと思います。その思いをハート(HIV感染者)を支える手に込めました。少しでも多くの方が優しい手でHIV感染者の人を支えてくれたらいいなと思います。



〈梅林中学校〉

総合学習などで、HIV 感染者やエイズ患者に対する差別があることを知りました。差別は絶対にしてはいけないし、エイズについて知る事が大切だと思います。今回、エイズ患者への差別について考える事ができました。差別を絶対にしなないようにします。そして、世界中にレッドリボン運動が広がってほしいです。



〈本巣松陽高等学校〉

エイズについて、偏見を持っていたり、エイズとともに生きる人達を差別したりすることはあってはならないものですが、まだそういう誤解された見方は残っています。これを通して、エイズに対する間違った見方がなくなるようにと願いを込めて、主に暖色を使って、ハートがたくさんデザインのしました。



〈済美高等学校〉

治療法の進歩により HIV 陽性者は感染の早期把握、治療の開始、継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIV に感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。しかし、現状はそういった変化が正確な情報として社会に十分に伝わっていないと感じるため、進歩するエイズの現状と HIV 検査の重要性、また偏見や差別をなくしたいという思いや願いをフラッグに込めました。



〈岐阜聖徳学園大学附属中学校〉

私たちの学校では、宗教の時間に「いのち」のことで学びました。その後、宗教委員と茶華道部で呼びかけ、全校生徒にレッドリボンにメッセージを書いてもらいハートの中に貼り付けました。そのハートを手で大事そうに包み込んでいる様子は、個人の尊重という意味が込められています。



〈岐南工業高等学校〉

この作品を作成するまで正直 HIV の名前だけで詳しいことは知りませんでした。ある保健師さんの「神様がくれた HIV」を読み、日本だけでも HIV に苦しむ人は僕らの想像より多かったです。皮膚の傷口（針刺し）や母子感染、性行為もあり、もしかしたら気づいていない人達もたくさんいると思います。HIV に対して、悪いイメージを持つ人もいますが、それは決して他人事でないこともこの本を読んでわかりました。この本で僕らが HIV のことを知る事ができ、手紙を通じて呼びかけをお届けします。

世界の人々が HIV のことを知り、HIV で悲しむ人が減り、その知識を広めたいという思いを込めて作りました。



〈岐阜市立女子短期大学〉

インターネットが発達した現在において、情報を得ることが簡単になった一方で、誤った情報を信じてしまうこともあります。エイズや HIV についても同様のことが言えるかもしれません。正しい知識の普及はもちろん、困ったときは一人で悩まず身近な人と手を取り合って理解を深めてほしいというメッセージを込めました。



〈岐阜市医師会看護学校〉

治療のこと、検査のことを学びました。そして、予防することが第一と考え、このデザインが決まりました。大切な人を守るため、予防していきましょう。



〈岐阜市立看護専門学校〉

世界のエイズ患者の人々が、今よりも幸せに過ごせますようにという思いを込めて、このデザインにしました。エイズへの関心を持ち、差別や偏見が減ってほしいという願いを込めて制作しました。



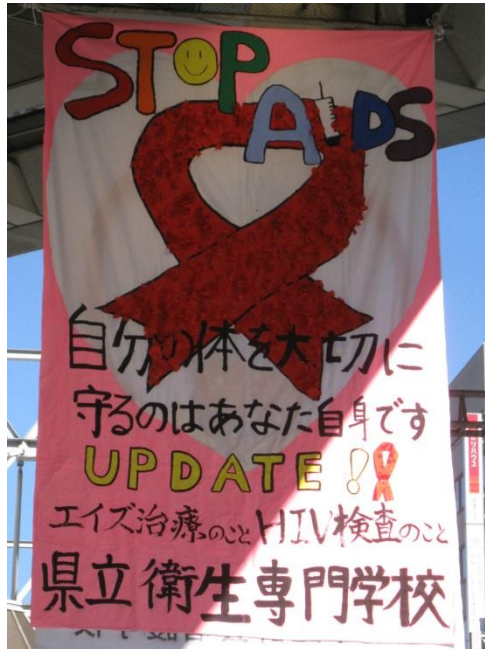
〈岐阜大学ピアカウンセリング同好会
シグマソサエティ、協同：羽島高等学校〉

私たちの合言葉「LOVE OUR FUTURE」は自分たちが自分たちの未来を愛せるように今を生きようという思いがあります。デザインをリボンの形にすることで、フラッグを見た方たちの印象に残るようにしました。これを機に、エイズやHIVに関する差別や偏見をなくすきっかけになってほしいという思いを込めて制作しました。



〈岐阜県立看護大学
ピアサークル〉

現在「エイズは遺する」や「不治の病である」という思い込みや間違った知識がまだ存在します。エイズに関する正しい知識を手を取り合って協力し少しでも多くの人の中で根付いて育ててほしいという思いを込めて制作しました。



〈岐阜県立衛生専門学校〉

エイズとともに生きる人々に元気と勇気を届けたいという思いを込めて、デザインや配色を考えました。背景のピンクは「思いやり」、たくさんの色を使うことで「支え合う」という思いを込めました。フラッグが少しでも元気や勇気を与えられたらうれしいです。



〈岐阜市〉

治療法の進歩により、感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。

世界中のみんながエイズの正しい知識を持つことで差別や偏見がなくなるものと思います。

治療と検査について、UPDATE（更新）しましょう。